

愛

Bブロック 全作品と講評



www.columnland.net/

にて作者さん&読者さんの声実況中

君がよく言ってたこと

『クローバーにはね、魔法が込められてるんだよ。』

その意味、やっとわかったよ

なんでもない野の草にも

愛する心があるってこと

その言葉、もう一度聞きたかったな

♣ CLOVER ♣

最近、僕たちの世界では新たな法が生まれた。

愛を持つべからず。

基本的に僕らの感覚に愛というものはなかったので、さほど問題がないことだと、皆はこのことを始めは大きく騒ぎたてようとはしなかった。

いくらかの時が経って、問題は起きた。監視当番の者に違法者が現れたのだ。ただ相手のその時が来たら下へ降りて案内すればよいものを、その者は仕事を拒んだ。あのお方の使いの者は、これを怠惰と判断せず愛であると決め付けた。彼は裁きを受ける身となった。その処遇を皆が気にした。どうやらこの世界から追放されるということのようだ。裁きの時が来ると彼の背中から翼がはらはらと舞い散り、彼はその瞬間に完全に消えた。執行される前にも後にも、裁きの内容は公表されなかった。だが現場にいた者は、内容は極刑であつたのだと思ひこの法を肝に銘じた。

世界に緊迫が走り始めてまたしばらく後、ある監視当番が下を歩く者のひとりに、消えた彼の面影を見た。噂はたちまちに広まり皆がそれを探したのだが、なんとこれは彼に違ひなかった。ここから裁きの内容が推測された。

翼を奪い人として下界に降ろす。

しかし僕の親友にはこの法の意味がわからなかった。なぜ愛とやらを持つてはいけないのか。親友は強い疑念を抱いてあのお方のもとへ向かった。後に語られた会話はこうだ。

「貴様らはそもそも愛を持つてはならないのだ。ただこの管理職を全うすればよいものを、あれがそれを妨げてしまうのだ。」

「しかしお言葉ですがゴッド、あなたは何をもって裁く者を判断しているのですか？あなたはあるがどのようなものかご存知なのですか？」

「…愛を知るのは下界の特権なのだ。代わりに我々のように永くは生きられない。さらに一度愛を持った者はそれを捨てる事が出来ない。だからもう人間にする他ないのだ。」

強制降下された者の罰則者らしからぬ幸せな顔。親友はそれを見て人に憧れたようだ。あるいは天界で禁じられたものを知りたくなったのかもしれない。彼は下界の人を指差しこいつを愛していると嘘の告白をして天界を去った。

天界では愛の意味も知らず裁きを与える神に天使たちが次々と懐疑心を抱き始めた。さらに後を追うようにして天使はその数を減らし、誰も興味のなかった愛を禁じる法がいまこの世界を揺るがしている。前代未聞の事態である。

——神にも予想できない展開を起こした得体の知れないもの。親友と僕が下界でその片鱗を掴んだのは、またもう少し先の話になる。

この二人のカタチ・ママのカタチ

どれほどの言葉語り尽くしても、

君には、他に好きな人がいた。

君に贈る言葉が尽きることは無い。

僕に嬉しそうに彼の話をした。

溢れる言葉は、流れる水の如く。

僕はただ笑うしかなかった。

零れる想いは、流れる星の如く。

それでも、隣にいてくれた君へ…

心の形をハートで表すように、

ねえ、愛なんて無価値？

恋の形をハートで表して…

ノー、ノー、愛は不価値…

…ほら、まさしく恋は心そのもの。

付加価値 求めるもんじゃない。

盲目であろうと、下心であろうと、

嘯いたけど 結局、最後は愛の勝ち…

やっぱり僕は君に恋してる。

やっぱり僕は君を愛してる。

渦を描いた感情は、

この気持ち 簡単に変えられないや。

渦を描いて感傷へ、

…僕のこと、君はどう想ってるの？

或る日、帰ってきた君が

好き？ それとも… 確かめたい。

僕を ギュッと抱きしめて泣いた。

…確かめて、後悔しない？

僕は 君に抱きしめられながら、

それでも気になり 嬉し恥ずかし

一緒に泣くことしか出来なかったけど、

押し隠し しゅんしゅん…

僕の気持ち、少しは伝わったのかな？

結果は見事、玉砕…(涙)

君は「愛してるよ」って言うてくれた。

幾ら甘えたがりだからって

僕も負けずに大きな声で言う。

いきなりキスはいけなかったかな？

「御主人様、愛してるワン…！」

六十年、会いたかった人

墓地にて、墓を見つめる老人がいた。「田中家之墓」と書かれた墓を見て、その老人、田中利造は、感慨深くため息をつく。

——やつと、母の眠る墓に手を合わせる事が出来た——

利造はらい病(ハンセン病)の患者であった。現在では感染力の弱さが確認され、特效薬も発見されているこの病気だが、「らい撲滅」の名の元に、国による患者の強制隔離など、激しい迫害の対象となった。

幼くしてらい病を発病した利造を、利造の母はかくまいながら大切に育てた。しかしいつの頃からか利造の病気は村全体の知る所となった。

幼い妹は近所の子供達から仲間外れにされ、弟は学校帰りに「らい菌虫め！」と泥を毎日浴びせかけられ、姉は式の日取りまで決まっていた婚約の話を破談にされ、自殺未遂をした。そのうちに村人たちによって水道が止められ、ガスが止められ、ついには家に火をつけられ、一家は生活することすら困難になっていった。

「隔離施設に行きたい。」愛する家族への迫害を断ち切るため、利造は自らそう願っていた。利造、十七の冬のことだ。

故郷を離れる朝、利造におむすびと干し芋を持たせてやりながら、利造の母は涙を浮かべながら言った。「どこに行っても、利造は母さんの大事な大事な息子なんだからね。」そうして利造を抱きしめながら、何度も頭をなでた。親子は、一生分の悲しみの血の涙を流した。

それからの利造の人生は、塀で囲まれた牢獄のような施設の中で、落ち葉が腐葉土になるがごとくに過ぎた。法律が改正され、らい病の患者が塀の外に出るのが許されるまでに、実に六十年の歳月が流れた。

利造が墓前に手を合わせていると、ふと、隣に立つ人の気配がした。顔を向けると、一人の老婆が、いや、年老いてはいるが確かに六十余年前、今生の別れをしたはずの、自分の母親が立っていた。満面の笑みの年老いた利造の母親は、何かひとことささやくと、背中を向けて去ってしまふ。六十年の中で最も愛し焦がれた、その人を追いかけようとした瞬間、母は、風になって、消えた。

利造は今度は暖かい涙をながした。今までの自分の人生の垢が、少しずつ洗われていくような気分になった。

【誕生】

何も持たず
固く目を閉じて泣き叫ぶ、
生まれたての自分に
周りの人々は惜しみなく与える

【噛み合わない】

つまらない事で毎日ぶつかり合う
両親と自分
何も生まれない議論に
うんざりしている
そうか

複数のベクトルは
どんなに長くても、
向きが違うから
打ち消されてしまうのか

【初めて、】

形の無いものを形にする難しさを
味わう、
つたない自分の字と文章で
ツギハギしたそれは、
封よりも先に
『ごめん』の一言で
裂けてしまった

【長い道の先も 長い道だった】

二つの指輪は交換できるけど
二つの心は交換できない

だから
衝突してしまうことも
あるかもしれない
でも、こんな自分をずっとよろしく

【似ているって】

言われて
自分は嬉しいけど
幼い君たちはどう思うかな
嬉しいと思ってくれればいいな
いや、
似ている事を誇らしい
と思えるような親に
なりたい

【最期に】

人生はよく旅に例えられる
昔の欧米人にとっての旅は
目的地に着いてからが始まりだが、
昔の日本人にとっての旅は
旅路そのものを楽しむものだ、と
ある本に書いてあった
旅路は楽しい事だけではない
けど
苦しみながらも
楽しむ事ができるのは
傍らにいてくれる人々へ
朽ちるのを待つだけとなった
自分でも
惜しみなく
与え
受け取れる
愛、
があるからではなかったか

LOST THE LOVER

濃密な緑から突如現れたのは、巨大な金属の人影だった。屈んで待ち伏せしていたらしいその機体は、射程圏内に踏み込んだ俺の機体へ巨大な銃口を向ける。

「ちつ、探知できなかつたぞ！」

誰に届くわけでもない独り言を叫びながら、機体を左へ投げ出す。間に合え——そう祈る俺の気持ちもむなしく、コックピットに振動が走る。計器がレッドランプと警告音を吐き出し、脚部の損傷を知らせる。

「くそっ！」

妙な浮遊感を感じた俺は、機体が転倒することを覚悟する。その瞬間、モニターが迫ってきた。

……どうやら、額の傷は大したことなかつたらしい。

頭に包帯を巻かれて野戦病院のベッドに寝かされていた俺だが、目が覚めるなり他の負傷兵に居場所を取られて病棟から追い出された。少しばかり目の保養をしておきかたところだが、損傷した機体が心配なので格納庫へ直行する。

巨大な鉄扉を開け放った格納庫からは、慌ただしさと騒々しさが溢れ出していた。どこかの部隊がまた戦闘から帰ってきたのだろう、帰還した機体を点検しているところもあれば、早くも損傷機の修復が始まっているところもある。せわしなく動き回る整備班の中、怒号とも取れる大声で指示を出している整備班長がこちらの姿に気づいた。

「よう、怪我の方は大丈夫か？」

「こんなもんだ、それよりあいつはどうだった？」

俺の質問で整備班長の表情が曇った。

「残念だが、撃たれどころが悪かった。徹甲弾が膝関節を貫通したおかげで修理するにも時間がかかるし、あいにくこの部隊はスペア不足だな。解体して他の機体の整備に使うことになった、すまんな」

「なっ……！」

突然告げられた、乗機の解体。時間がかかる？ スペア不足？ その程度の理由で俺の機体が？

「こいつには一年以上乗ってきたんだ！ そんなことされてたまるか！ 第一、乗機がなくなったら俺はどうすればいい？ 整備班の小間使いでも——」

突然、整備班長に胸ぐらを掴まれた。それなりに鍛えているはずの俺の身体は軽々と引き寄せられ、しわの刻まれた顔が迫る。

「俺達はなあ、お前らパイロットが乗ってないあいだはずっと、一日中、こいつらを世話してんだ。残してきたカミさんや娘よりずうっと可愛がってる。戦闘中にこいつをコキ使うしか能がないてめえごときに……」

そこまで言ったところで口をつぐんだ整備班長は、俺を突き放して顔を背けた。

「こいつの解体は決定事項だ、文句があるんなら大隊長にでも掛け合ってくれ」

格納庫を閉ざす灰色の鉄扉、その下に取り付けられた小さなドアから、俺は格納庫に踏み込んだ。天窓から差し込むわずかな月明かりを受けて、巨大な人型がいくつも影を落としている。

そして格納庫の一番奥。そこに俺の機体が横たわっていた。改めて見れば、膝関節は修復が不可能だと一目で分かるほど派手に壊れている。

「お前さんか……昼間は悪かったな」

突然声が聞こえたが、何となく予想できていた。俺の機体にもたれかかるように、整備班長が座り込んでいた。

「いや、あれはこつちが悪かった。そいつは？」

俺は整備班長の手に握られたスコッチのボトルを指差す。軍では基本的に禁止されているはずの酒がなぜ、ボトルで？

「見たら分かるだろう、酒だ」

「そうじゃない、その酒はどこで手に入れたんだ？」

「ああ、主計長からポーカーで巻き上げてきた。大したもんじやあないが、お前さんも飲むか？」

俺が来るのを待っていたのか、ご丁寧にコップは三つ用意されている。俺は頷いてくすんだ金属製のコップを受け取って、整備班長の隣へ腰を下ろす。

「お前さんが一年以上乗ってきたんだ、俺達整備もこいつの世話を一年以上してきた。だからこそ、そんな簡単には解体を決められなかった」

整備班長は寂しげな笑顔を浮かべて、安っぽいコップにこれまた安っぽいスコッチを注ぐ。

「あなたの決定は間違っちゃいない。仕方のないことだし、こいつのは何度あつても慣れそうにない」

「慣れないさ、この年になつてもな」

整備班長はふっとため息をつくと、背中を預けた機体を振り返った。寄りかかった装甲板を惜しむように撫でながら、スコッチをなみなみと注いだコップを掲げる。

「……飲むか」

「俺の……俺達の愛機に」

『恋』は、相手の長所を見つける力

『愛』は、相手の短所を認める力

一方通行

鏡に映った私には右目だけしかなかった。＼左目が無い＼のとは少し違う。手も足も、体も無い。水槽の中に導線を生やした眼球が一つ浮いている、ただそれだけだった。

事故の事はよく覚えていないが、私は通常の医療では助からない状態にあつたらしい。そのため私の脳をコンピュータに置き換え、そのコンピュータに右目を接続した。そんな説明を受けた。要は研究材料にされたという事ようだった。

右目だけの生活は想像以上に辛いものだった。怒りや悲しみに泣くことも、拳を力一杯に握りしめることも、視線を動かすことも、息を吸うことも、何もできない。拘束されている訳では無い。堪えている訳でもない。なのに、できない。何もできない。何もできない。ただただ同じ部屋の隅を見続けるだけの毎日。それはどんな痛みよりも苦しいものだった。

そんな生活にただ一つ光があつた。スケッチブック片手に時折私の部屋を訪れる白衣の女性。彼女は私が居る施設の研究員であり、この研究についての話を聞かせてくれた。『五百億の分子回路による理論上完全な脳組織の再現』『愚直なコピーゆえに生体部品しか受け付けない』『電気信号を記録しての研究』難しい話は半分も分からなかったが、ともかく私に向かつて語りかけてくれる人間が居る。それだけで私は救われた。彼女がきつとまた会いに来てくれる。それだけのために生きる事ができた。

私は彼女を愛した。母親のように愛した。姉弟のように愛した。親友のように愛した。恋人のように愛した。時が経てば経つほど彼女への愛は膨らんでいき、それは私を救うと同時に苦しめる事になった。

彼女に私の気持ちを伝えたい。私がどれだけ救われたかを伝えたい。ただ「ありがとう」と言うだけでいい。言葉ですら無くてもいい。伝えたい。伝えたい。だが、私にはそれができない。何もできない。何もできない。

私の心はのたうち回る。身体が無い分、さらに激しく心は騒ぐ。膨大な感情の波に押し潰されて、完全なはずの回路の一部がショートを起こす。心の一部が欠けた感覚に襲われ、私も何が起こったかを理解する。

見つけた、これだ。歓喜の波が爆発し、再び回路が飛ぶ。喜びが勝っているのか恐れる心が欠けたのか、不思議と恐怖は感じない。立て続けのショートで他の回路も壊れやすくなっているようだが、むしろコントロールしやすい分都合だ。

規則的な間隔で、リズムカルに次々と回路が飛んでいく。どの回路がいつ壊れたのか、記録が残れば彼女はチェックするだろう。伝える。伝える。伝えきる。意識が薄れていく中で、私はそれだけを念じ続ける。

届きましたか。私の――あ――り――が――と――う――。

人が好きになる対象は、

それを人に限っても色々ある

友人、恋人、恋人未満のあの人、

或いは友達未満のあの人

私の場合はそれが、私の生まれる

百五十年前に死んだ人であったという

ただそれだけの話だった

その人は詩人であった

詩人の詩に出逢い、心を打たれ

詩人の最期が幸薄いもので

あったことを悼み

詩人を理解し究極的に救うことが誰の手

によっても最早叶わないことを辛み

詩人がこの世にいないことを嘆いた

信ずるに足るものを手に入れた

結局私は何を得たか

やがて私は

詩人が生きた証拠を探り

詩人の作品に触れては

その度に魂を震わせ

詩人の恐ろしく美しい世界が

永遠のものであることを願う

詩人が今生きていることを信じた

来年には、詩人は

生誕二百周年を迎える

私は二十歳になる

これが節目なのかもしれない

このエゴにも似た想いを

全て愛に昇華させようと思う

愛を捕まえよう！

① 愛はどこに住んでいるの？

愛は基本的に世田谷区を好みます。世田谷区在住の人は、今までに見たことがあるかもしれませんね。世田谷区以外に住んでいる人は、早速週末に世田谷区に繰り出しましょう。

② 愛はどうやって捕まえればいいの？

愛の行動パターンは、基本的に人生にうちひしがれた中年の男性のそれと同じです。昼間の公園に行けば、ブランコを漕いでいるでしょうし、夜は夜で、公園でブランコを漕いでいるでしょう。

③ 愛を捕まえたらどうすればいいの？

捕まえた後は、警察に届けるのが一般的です。しかし、別に届け出るのが義務というわけではないので、家に持ち帰って飼育してもよいでしょう。

④ 愛を飼うにはどうしたらいいの？

まず、持ち帰ったらすぐに水に塩と蜂蜜を溶いたものを与えてください。後は十分に暖をとり、部屋に一人にしてあげましょう。馴れてきたら、肉料理を求めてきますが、主従関係を教え込むためにも、しばらくははじめに与えた水と同じものを作り、与え続けます。基本的にはおとなしい性格ですが、まれに腕に噛み付く場合があります。その場合には、首筋に熱湯をかけてください。情けない声を上げて、さっと身を引き、しばらくは部屋の隅でしゅんとしています。

⑤ 愛が大きくなりすぎて、もう家では飼えないんだけど・・・

前述の通り、警察に持っていけば引き取ってくれます。ただ、大きくなりすぎた愛を持っていくと、嫌な顔をされたり、別途で料金がかかったりする場合があるので注意が必要です。また、家の周りに逃がすと、戻ってきてしまうのでやめましょう。

さあ、あなたも愛を捕まえに、世田谷区に乗り込みましょう。

終章

「お話は、ここでお終い」

女は静かに、物語の終焉を告げた。

「結末、は？」

「さあ、わからないわ。このお話はこれ以上続かないの」

「……」

「…不満そうね？」

眉を下げた男を見て、女は小さく笑った。

「あなたらしくないわね。無い物ねだりだなんて」

「物語には普通、結末が用意されている」

男は拗ねたように呟いた。女は言う。

「結末の無い物語もあるわよ」

「なら、答えろ」

「なあに？」

「お前だったらどうする。さっきの物語と同じことを言われたら」

唐突な質問に、女は驚いたように動きを止めた。青空を通り抜けてきた風が、二人の髪を揺らして流れ去る。

風にのせて、男は言った。

「俺が、お前の愛が欲しいと言ったら」

またひとつ風が吹いて、沈黙が流れる。木々の揺れる音がやけに響いた。

「あなたらしくない。そう言うわね」

「……これも、無い物ねだり、か？」

「馬鹿ねえ」

女は楽しそうに笑って言った。

「だって、珍しいじゃない？もう持っているものを欲しがったりするなんて」

「……待て、それは」

「良かったわね！」

女は赤くなった頬を隠すように、青空に声を響かせた。

「私たちの物語には結末があつて。そうじゃない？」

問いかけられた男は、初めて顔を紅潮させながら笑って、目の前の愛しい人を抱きしめた。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	無題 (花火)	5 pt	5 位	1 sp
		冬のクリスマスほどではないけれど、夏の花火も愛情確認イベントか。 「いつもより少しだけ強く」が、しあわせ感あふれてて、いいですね。 青春どまんなか直球気分の愛の表紙でした。 特別賞：夏祭り賞 (接戦でした)		
A02	結婚指輪と愛	9 pt	3 位	0 sp
		恒例正統派枠に、こんなさっくりトークはいかが。愛することは守ること。自らの胸中へと静かに埋め込んでゆく決意のような。すんとみんなの腑に落ちてのブロンズメダルでした、おめでとう！		
A03	愛する者しか見えない世界	12 pt	2 位	1 sp
		戦闘シーンのバイオレンスと家族写真の悲しみの対比で、まさに映画的に「殺戮」の現場へと引きずり込みつつ、「殺さなきゃ死ねねえよ」と戦いの本質へ肉薄。 愛するからこそ戦いは止まないのだという、とても重たい問いかけでした。 特別賞：「へいたいさん」は漢字で書きま賞 (「へんたいさん」に見えた!!)		
A04	神に愛された男	5 pt	5 位	0 sp
		さくさくさくと人生をともに歩いてきて、ラストでえーっ！ なんて、イケてない神様っ！ あ、そうか。招待状、無視しちゃえばいいのね。		
A05	～HANDS～	1 pt	11 位	0 sp
		そうやって親は、ずうっと子の成長をあたたく見守ってゆく存在なのです。 手の大きさという具体的なモノを介して、親心のカタチ、ほんわか伝えていただきました。 じっと手を見る読後感。		
A06	無題 (墓地)	4 pt	8 位	1 sp
		おやおや少女＝幽霊かと思いきや、の逆転劇。ひっくりかえしが、ここちよい。 みんなでハモっちゃう、とっても陽気な幽霊カルテットでした。 特別賞：草の陰で応援賞 (平和ボケ最高！) イチオシフレーズ：「クソォ、この幸せモノがああああ」×2		
		5 pt	5 位	4 sp
		パラパラマンガのナレーション風。		

A07	少女愛	<p>たんたんとして展開してて、じつは超シリアスなドラマ。特に「少女」でなくなってしまった「女」が男にスルーされてしまうラストが、ぞーっ。</p> <p>特別賞：(21)で賞(ふりがな：ロリイラストつき)中谷君のオススメ賞(共感できるそうです)ロリコンで賞(女になったら気付かないんだね)愛で賞(アニキのイチオシ)</p>
A08	現世	<p>33 pt 1位 1 sp</p> <p>感動ストーリー、のち、プリンのドタバタ。ていねいに作り込んだドラマから、長年連れ添った夫婦ならではの機微が伝わってきます。</p> <p>すうっとフェイドアウトすると思いきや、という後半の「動き」がみなさまにヒットして、圧勝ゴールドメダルでした、おめでとうっ!!!</p> <p>ただ、「僕」のスタンスが不明なのが読者としてはやや落ち着かないところです。ここって男女共用病棟?? いっそ幽霊にしてしまうか、看護師さんやお医者さんにしてしまうかという手もあったのでは。</p> <p>特別賞：プリン愛で賞(プリンの力が偉大だから)</p>
A09	なんでも買取屋	<p>1 pt 11位 0 sp</p> <p>愛1円、あなたは売りますか? アヤシイお店。定番設定だけれど、しっかりホラーしてましたね。</p> <p>一時の気の迷いで、うっかり手放してはいけませんよ、ご用心ご用心、と。</p> <p>イチオシフレーズ：「俺はフィアンセだ」「愛1円」「パソコン8万円」</p>
A10	無題(編集部)	<p>3 pt 9位 1 sp</p> <p>終業式のホームルーム、夏休み前の事故の注意といった趣ですね。</p> <p>コンパクトにかっちりまとめてグッジョブ!</p> <p>特別賞：ピッタリ賞</p>
A11	ホームシック	<p>3 pt 9位 1 sp</p> <p>この場のたくさんの人に共通する思いだったのでは。離れてみて3ヶ月半、どうですか? 遠きにありて思うもの。家族ってそんなものだよな。もうすぐ夏休み。タイムリーな佳品でした。</p> <p>特別賞：共感するで賞(そのまんまだから)</p>
A12	カップルの会話	<p>9 pt 3位 5 sp</p> <p>ひゅーひゅーバカップル! いいじゃないのしあわせならば。 ずうっとそこで無限ループしていただきますよ、な今期の読み納めでした。</p> <p>それにしても賑々しくみなさんのツボに来ましたね。狙い通り? だったでしょうか。最多特別賞&イチオシフレーズ大賞&ブロンズメダル&TAさんからのスイカgetおめでとうおっ!!!</p> <p>特別賞：宮崎の完熟マンゴーみたいに面白いで賞(バナナだから) while (true) {} (イミフwww) バカ(ツプル)賞(「トンガのスイカ」って何?) よくわからない賞もうちょっと続けて欲しかったで賞(聞いていておもしろいけど実際にいたらウザいよね。あ、別に、ひがみとかじゃないし!!)</p>

イチオシフレーズ：「じゃあインドの出っ張りくらい好き」×5 「ジャワ島のバナナ」「トンガのスイカ」（イラスト付き）「トンガのスイカくらい好き」
「無限ループ」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	CLOVER	5 pt ——もう一度聞きたかったな。 ラスト1行が、すんと心に落ちます。 二度とは会えない誰か。四つ葉のクローバーを探し求めた幼き日は戻らない。 シンプルな単語あそびに、ふわりと叙情を載せた、とてもきれいな「愛の表紙」でした。 特別賞：気付かなかったで賞（気づかなかった） イチオシフレーズ：「CLOVER」（気付いた感動！）	7 位	1 sp
B02	愛を持つべからず。	3 pt エンジェル・ワールドに大異変。 「お言葉ですがゴッド」、ヘタレ神様に愛は所詮、治められないのさ。 設定だけで終わらず、天使の大脱走というドラマへと展開した着想がすばらしい。 だから人間世界は楽しいのさ。根底に流れる楽観的な世界観に共感します。 イチオシフレーズ：「しかしお言葉ですがゴッド」×	9 位	0 sp
B03	コイノカタチ、アイノカチ	3 pt 犬かわいい。尻尾ふりふり、ご主人さま、まっしぐらの感じが、このフォントでどんぴしゃに表現されていますね。 試験前のこの季節にとてもうれしい、癒されコラムでした。 フォントが大評判で最多特別賞タイです、おめでとう！ 特別賞：フォント賞（ほんとがフォントに良い！←ほんとに、この通り書いてありました）鬼フォント賞（フォント交換お疲れ様でした～）字がかわいいで賞（字がキレイ、かわいい）フォント賞（努力がにじみ出ていました）	9 位	4 sp
B04	六十年、会いたかった人	19 pt 本年度のラストコールはしっとり。 ハンセン病の隔離、ニッポンの負の歴史、重たいテーマを、しっかり腰を据えて形にさせていただきました。 BGMとしてお届けしたのは「千の風になって」です。私は死んだのではない、風になっただけ。重たいからと内向きに籠もらずに、外へと開いたラストがほんとうに爽やかでした。 おめでとうゴールド・メダル!!! イチオシフレーズ：「利造はらい病」（利造払い病by 某）「らい撲滅」	1 位	0 sp
B05	傍らにあるもの	0 pt こつんこつん。選び抜かれた言葉たちが心に打ち込まれてきます。 「二つの心は交換できない」と「似ているって」のくだりが、とりわけ好きだったなあ。 とてもいねいに人生の旅程を歩んでいる作者さんの姿が浮かんできます。	12 位	0 sp

B06	LOST THE LOVER	7 pt	5 位	2 sp
		<p>出ましたおじさんファイター。この書き手さんの独壇場です。 整備班＝裏方さんに焦点をあてたところが、しみじみ。 特別賞：ガンダムで賞？（ガンダムだから）愛の多様性賞（機械萌☆） イチオシフレーズ：「飲むか。」</p>		
B07	黒歴史ファイル	5 pt	7 位	0 sp
		<p>あまりにイタイイタイので載せました（TAさん）だってさ。 うんうん、たしかに黒歴史だ。 そうして少年はおとなになってゆくのです。えーなに実話あ！？ イチオシフレーズ：「ファァァァック！神は死んだ！」 「□□！いつか復讐してやるからな！」「やめて！もう僕のライフはゼロですよ！」</p>		
B08	『恋』は、相手の長所を……	12 pt	3 位	1 sp
		<p>シタゴコロ・マゴコロネタあふれるなか、ユニーク視点でさくっと。 それだけに、うまいこと言った感が、とりわけ際立ちました。この激戦のなか、みごとブロンズ・メダルです、おめでとう！ 特別賞：吉見賞（「先生」のごり押し）</p>		
B09	一方通行	12 pt	3 位	1 sp
		<p>出ました目玉おやじ！ せつなさ全開。見ることと思考することしかできないという究極の「受け身」設定で、自分を殺すことによって唯一のメッセージを伝える、まさに究極の「愛」のカタチ。 あざやかでした。おめでとうブロンズ・メダル！ 特別賞：（モールス信号）賞 イチオシフレーズ：「（モールス信号）」×2</p>		
B10	信ずるに足るものを手に入れた	3 pt	9 位	0 sp
		<p>詩人だれだろう？ ずいぶん古そうな、しかも若死に？ そこがほかされているので、ちょっとつかみがたいのですが、日頃は話さない心のうちの「ひめごと」をこっそり教えてもらったような。</p>		
B11	愛を捕まえよう！	15 pt	2 位	4 sp
		<p>何このわけのわからなさ。 愛を捕まえて飼って、大きくなりすぎたら別途料金を払ってケーサツに引き取ってもらう。ターゲットはセタガヤク？ マニュアルあふれる現代社会を相手どって、かるやかに遊んでいただきました。ユーモアセンスにブラボーです。 シルバー・メダル&最多特別賞タイ&イチオシフレーズ大賞get、おめでとう!!! この夏休み、ぜひ愛を捕まえに世田谷区まで出かけてくださいませ。 特別賞：怪文賞（僕たちが未熟で解らなかった）ブランコを漕いでいるで賞（ブランコ大人気！）世田谷区長賞（意味不明。作者のコメントが聞きたい）世田谷区民賞（謎が謎をよぶこと） イチオシフレーズ：「さあ、あなたも愛を捕まえに世田谷区に乗り込みましょう」×2 「愛は基本的に世田谷区</p>		

		を好みます」「ブランコを漕いでいるでしょう」
		6 pt 6 位 2 sp
B12	終章	すてきなハッピーエンディング。 「もう持っているものを……」こんなすてきな決めゼリフ、言ってみたいし言われてみたい。 いつも読むものをとてもしあわせにしてくれる傑出した書き手さんにブラボーです！ありがとう。 特別賞：ハヌマーン賞（うらやましいカップルですこと）スイーツ（笑）賞（スイーツwwのように甘い感じ）